

令和3年度射水市障がい者総合支援協議会議事録

日 時 令和3年7月7日（水）

10：00～12：00

場 所 救急薬品市民交流プラザ 研修室

1 開会

2 部長あいさつ

3 委嘱状交付

4 委員紹介

5 会長及び副会長の選出

6 会長、副会長あいさつ

7 議題

(1) 令和2年度地域活動支援センター及び相談支援事業実施報告

資料1

(2) 令和2年度障がい者総合支援協議会 専門部会報告

資料2

《質疑応答》

委 員 : IT等、便利なものは早く統一してシステム化してほしい。今年度から地域生活支援拠点事業が始まっているが、一人ひとりのクライシスプランだけではなく、非常時の対応策を早急に考えるべきだと思う。

事 務 局 : IT関連については、本市では今年DX化を進めており、9月にはDX推進ビジョンを出す予定である。そのなかで、障害のある方についても、いち早く情報を伝えながら生活において様々な改善が図れるように検討していきたいと考えている。地域生活支援拠点事業については、このあと説明させて頂くが、今年度準備をしながら進めていくという形で検討していく。今回のクラスターも教訓にして、実効性があるものとなるよう協議していかなければならないと考えている。

副 会 長 : システムを作っていくことは非常に大事だと思うが、システムを作り実用化するには時間がかかると思う。地域活動支援センターや専門部会からの報告で共通するのは、コロナによって人との繋がりの大切さを再認識し、またその繋がりがうまくいかない課題が生じていることだと思う。講演会の開催方法や、在宅で過ごす利用者やご家族の孤

独対策、在宅ワーク中の家族関係の良好な保ち方などはコロナ禍の新たな課題である。企業に対する障害の理解促進に向けた取組については、求めているものに到達できているかどうかという点で見直しが必要だと思う。現在、大学では学生達と、ZOOMを活用して時間や相手を特定せずに自由に話ができる場を作る企画に取り組んでいる。パソコン等は既存の設備で始めることができるので、関心がある方は相談してほしい。

(3) 令和3年度地域活動支援センター及び相談支援事業計画

資料3

《質疑応答》

会 長 : 相談支援は、障がい者が地域のなかで安心して生活を送るための要である。感染症対策だけでもかなりのストレスが加わっているし、支援者へのケアは当然必要である。支援者へのケアをしていくのと同時に市からも国へ提言していく必要がある。

委 員 : クラスターの時に障がい者が感染を振りまくと受け取れるような報道がされて当事者が悲しい思いをされた。障がい者へ理解を深めるためのキャラバンはできないか。また、迅速に情報共有を図るため支援学校で活用している事業所のメーリングリストを作成できないか。他にも、気軽に相談したり不安を伝えたりする窓口として、LINEを活用することはできないか。次の事態に備えて、食糧支援を行う委託業者を事前に決めて契約をしておくことはできないのか。障がい者の中には複数事業所を併用している人も多く、すべての事業所で感染対策を徹底しないとサービスを継続的に提供できなくなる。事業所を助けることは利用者を助けることに繋がると思うので、事業所が感染対策のテクニックを学び共有できるよう市も支援してほしい。

事 務 局 : 現在、市のLINE公式アカウントがあり、コロナワクチンに関する情報などもここで随時発信している。LINEアカウント内で、障害のある方のグループを作成して運用できないか検討していくのがDXという形になる。今後しっかり検討していきたいと考えている。

食糧支援については、いみず苑以外の施設も含めて200名以上の方を実施した。防災備蓄の乾パン等を活用も検討したが、食べられる方が限られてしまうため、新たに物資の内容を決めて発注し、発送までに1週間以上かかった。今後は市としての迅速な対応について検討するとともに、各家庭においても平時から備えるよう啓発する等、あわせて考えていきたい。

障害を理解するためのキャラバンについては、社会福祉課の出前講座を実施している。障害特性に応じて理解してもらうことが大事だと思うので今後も継続して提案していきたい。

(4) 第5期射水市障害福祉計画進捗状況(令和2年度分)

資料4

《質疑応答》なし

(5) その他

・地域生活支援拠点等について

資料5

《質疑応答》

委員： クラスターが発生して当事者として本当に大変な思いをした。ここに示された各機能について一つずつ小さいことからでもいいから素早く確実に実現していったほしい。親亡きあとをまだ先のことに考えている当事者も多いが、規模は小さくていいので、市内各地に様々なタイプの居住施設をなるべく早く整備してほしい。また、緊急時こそどう行動すればいいのかわからないとかサービス難民とか在宅で療養中の過ごし方とか相談支援が重要になる。地域生活支援拠点を整備するなかで、形の見えるサービスを実現していったほしい。

会長： クラスターも勿論だが、自然災害が発生した場合はそれ以上に施設が機能不全になってしまう。地域生活支援拠点の整備については、きめ細かく実施するには大変だと思うが、目に見える形で着実に実行していただきたい。

委員： 障害のある方も地域住民の一員であるということを理解してほしい。万が一何かあった時には、まず地域住民が助け合う環境を作っていたきたい。射水市が策定した計画や施策は素晴らしいし、支援体制も整っているが、その施策等が当事者に届いているのか疑問に感じることもある。当事者に地域で当たり前の生活ができるように、コロナ禍で難しいこともあると思うが一生懸命取り組んでほしい。